

身近なところから 平和を考える

～あなたにもできる平和活動～

東都生協の平和活動

—だれもが安心してらせる平和な社会をめざして行動します—

平和活動も
組合員活動!



思いを込めたモチーフ

毎年開催する「東都生協平和のつどい」では、東友会の被爆者証言を中心にひざ掛け贈呈や戦争ほうきづくりを行っています。また、パネル展示などで戦争について学び、平和を願いながら観劇、音楽鑑賞などもしています。「平和のつどい」に参加することも、身近にできる平和活動です。他にもできる活動はあるはずですよ。あなたは何をしますか?

被爆者へのひざ掛け贈呈

- とーと会(ピースニットカフェ)、サークル(パッチワーク三本杉)、地域委員会(第6・8・9)などのグループが東京に住む被爆者の方たち(東友会)にモチーフを編んで、ひと針ひと針つないだひざ掛けを贈っています。
- 2020年度はひざ掛け39枚、マフラー11枚を贈呈

戦争ほうき

- 「戦争反対」の意思表示として服の胸やかばんに付けるほうき型の小さなアクセサリー。1991年、東都生協組合員の入江篤子さんが考案し、全国に広がっています。核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)が2017年にノーベル平和賞を受賞し、ノルウェー・オスロで受賞祝賀会が開かれた際にも多くの人が胸に付けました。
- 第16回「東都生協平和のつどい」(2019年)までは、会場で戦争ほうきを作りました。



ボクも作ったよ

「平和」という言葉は、誰もが知っています。

「平和」は「戦争」の対語のような印象があります。

でも、家庭、地域、属している組織にも平和が必要です。

例えば、いじめ、差別、あおり運転、コロナ禍においての家庭内暴力、児童虐待など、身近な平和を脅かすコトは、実はたくさんあります。

「意見が違う」「気に入らない」人・コトを「排除・攻撃する」状況は平和とは言えません。

小さな火種は、放置するとやがて大きな火種(=戦争)に向かう危険があります。

今号では、身近なところから平和を考えてみたいと思います。



桃モッツアレラチーズ

材料(2~3人分)

桃……………2個
モッツアレラチーズ……………300g~400g
レモンの皮……………適量
(※ワックス・防カビ剤・防腐剤・農業不使用のもの)
白ワインビネガー……………適量
塩・ブラックペッパー……………適量
オリーブオイル……………適量
ペビーリーフorバジル……………適量

作り方

1. 桃は皮をむき、一口大にカットする。モッツアレラチーズは手でちぎる。
2. (1)をボウルに入れ、塩・ブラックペッパーであえて皿に移す(桃は変色しやすいので素早く)。
3. レモンの皮は細く千切りするか、ゼスター(なければおろし金)ですりおろして(3)にかける。
4. オリーブオイルを全体にかけ、白ワインビネガーで仕上げる。
5. ペビーリーフやバジルで彩りを添える。

旬のレシピ

桃に関するプチ情報

桃は上下で糖度の差があるので、縦にカットして枝側から食べるのがおすすめ。最後まで甘みを感じられます。

上手にカットするには、①桃の溝に沿って1周切り込みを入れた後、優しく持ち、グルッとねじるように回して半分に割る、②半身を好みの幅に切り分け、種の残っている半身はそのまま切り込みだけを入れる、③種に沿って包丁を入れる(これできれいに実が外れます)。カットし終わった桃は、皮を下にしてまな板に置き、包丁を寝かせて実と皮の間に滑らすように入れていくと、皮もきれいにむけます(桃の品種によってはむぎにくい場合も…)。



Attention, please!!
[アテンション・プリーズ]

桃はお好きですか?
桃のアレンジレシピをご存じでしょうか?
クロスワードの答えと一緒に送ってくださいね。

もう一品 おすすめ メニュー 桃 サンドイッチ

材料(2人前)

桃……………1個 きび砂糖……………20g~
無糖プレーンヨーグルト……………400g (お好みで調整)
(水切り後200g前後に) 食パン……………8枚切り4枚
生クリーム……………200g メープルシロップ※……………適量
(乳脂肪分42~47%) ※クリームチーズに変更しても美味。
飾り用ミント……………適量

作り方

1. ボウル(水切りした水分がざるに着かない深さ)にざるを重ねてキッチンペーパーを敷き、ヨーグルトを入れる。上からラップをして冷蔵庫に入れて水切りする(3~4時間:少しやわらかめ、6~7時間:より硬めになる)。※前日に準備しておくとお楽です。
2. (1)をボウルに入れ、きび砂糖と混ぜる。
3. 生クリームをツノが立つくらいまで泡立て、(2)と合わせる。
4. 食パンにメープルシロップを塗り、その上から(3)を塗る。
5. 桃は皮をむき、好みの厚さにスライスして(4)のパンの上に並べ、さらに(3)をのせる(後でカットする部分に桃を並べると断面がきれい)。
6. (5)をもう1枚のパンではさんだらラップできつめに包み、冷蔵庫で30分ほど寝かせる。
7. お好みのサイズに切り、飾りにミントを添える。



桃の食べごろ

(有)山梨フルーツラインの桃は、前ページでご紹介したように「完熟」で収穫しているため、早目に召し上がるようにしてください。桃の硬さを知りたい場合は「少しずつつへた(お尻)の部分」がやわらかくなるので、確認してください(生産者)とのこと。完熟桃の深い味、ぜひご堪能ください。



今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催となりました。画面越しでしたが、東友会・村田未知子さんのお話を聞いて、平和の尊さをあらためて心に刻みました。

村田未知子さんの証言を聞いて…

被爆者数は多い時で37万2,264人、毎年約1万人の方が亡くなり、20年にはその数も13万6,682人となったそうです。東友会に所属する方の平均年齢83・3歳、多くの方が高齢です。寄せられる相談件数は年間約1万5,000件。被爆者相談カルテにつづられた人生の重みは、画面越しでも実感できました。「迫る火の勢いがすごくて、家の下敷きになって苦しんでいる母を助けられなかった。振り返りながら何度も『ごめんさい』と手を合わせて逃げたつらい思い出は一生忘れられません」「死にたくないと言って死んでいく人たちが。形ばかりのお棺に入れ、燃え残った木で亡くなった子どもたちの遺体を焼く。そんな光景が当たり前だった」「被爆者だというだけで差別を受けた」「里から届いた物を近所に配ったら、原爆がうつると捨てられた」「被爆者の娘だからと結婚を反対された」「亡くなるまで」妻に被爆者だと言えなかった

村田さんの「東都生協の組合員さんとの交流会と、いただくひざ掛けでどんなに心身が温まるか…感謝しています」という言葉に少しホッとしました。そして、「原爆による地獄から生き残った者の使命は、再び被爆者をつくらせないこと、被爆時のことや被爆者の人生を知らせていくこと」と話され、最後に「核兵器廃絶に向けた運動を進めていきたい」と結ばれた、村田さんのお姿はたくましく見えました。視聴後、私たちにできることは「被爆者の話が聞きたい」と声をあげるのだと、強く思いました。



村田 未知子さんプロフィール

1982年に東友会相談員として勤務。主に、被爆者相談所の主任相談員として活動。被爆者の実態を30年以上「相談員の証言」として語り続けている。

一般社団法人 東友会(東京都原爆被害者協議会)とは
広島と長崎で人類初の原爆を体験し、その後東京で生きてきた被爆者が1958年に結成。「ふたたびヒロシマ・ナガサキをつくらせない」を合言葉に死没者慰霊事業、核兵器廃絶、被爆者の諸制度の充実、原爆被害の国の償いを求める運動などを行う。2013年結成の「おりづるの子」は、都内在住被爆二世(有志)により東友会の支援で誕生。東友会と連携して活動している。

平和のつどい 参加者の感想

- 大切なことは被爆者の方々のご経験を遺産として、後世に残していくことだと思う。それが今から未来に向けて、パトンを渡すことなのかと思いました。
- 被爆者の証言を伝えていくことがいかに大切であるかがよく分かる「つどい」だった。冷静に被爆者の声(叫び、思い)を語る村田さんの迫力に感動。貴重な時間を持ってたにとどまらず、自分のできる平和活動を行っていきたい。
- 核兵器の恐ろしさを改めて実感し、地球上から核兵器廃絶を実現したいと思いました。
- 相談員さんならではのお話は、被爆体験、差別、心の苦しさなど、こんなことは決してあってはならないと思える内容でした。参加された方で、お子さんにもつなげていかなくては話されていたのもよかったです。
- 戦争体験者が少なくなっていく中、それを後世に伝えていく私たちの役割は重大です。
- リモートの方法もこんな風に来て、東都もやるじゃないかと感動。グループ交流のまとめ役さんの力もgood。



まとめ

「戦争の恐ろしさと平和を次世代に伝える使命がある」

東都生協は1973年の設立以来、平和活動を大切に、組合員からの募金を活用した「東都生協平和のつどい」、各地域の平和募金企画などを毎年開催しています。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響でNPT(核兵器不拡散条約)再検討会議の延期など、多くの活動ができな中、「アジアの子どもたちに絵本を贈ろう」企画やピースベルの呼び掛け、ピースアクションinヒロシマ・ナガサキのオンライン参加など、3密を避けた企画を実施しました。「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」にも取り組んでいます。



一方、被爆された方々は高齢になりながらも、経験を話し、戦争反対の運動を続けています。戦争は75年前の遠い過去ではありません。戦争体験や遺品を次世代に伝え、パトンを未来へつなげるかどうかは、私たちの行動次第です。

「他者を認めない・尊重しないことは平和ではない」

女性蔑視発言をはじめ、たとえ無意識でも偏った価値観から誰かを傷つける場合があります。そして残念なことに、いじめや虐待はなくなり、傍観も被害を大きくします。

平和は小さな勇気や気づきから始まります。身近なところから「平和」を実行してみませんか。まずは、知らず知らずに他者を排除していないか、自分の心に問い掛けてはいかがでしょう。



「家の中にある」戦争の傷跡

「お父さんは人を殺したの?」

2000年に77歳で亡くなった夫の父は、25歳ごろに召集され、ニューギニアに行きました。夫が小学生のころ、父親に「お父さんは人を殺したの?」と聞いたそうです。すぐに血相を変えた母親が飛んできたので、聞いてはいけない話だと夫は悟りました。

この話を聞いた私は、「戦争は被害者になるだけでなく、加害者にもなる」ことに気づき、体が震えるほどの恐怖を感じたことを覚えています。

お酒を飲んだ義父がぼつりぼつりと話してくれたこと

「飯ごうはどうかしましたか?」と私は義父に聞いたことがあります(復員兵には炊いた米が入った飯ごうが配られた)。復員した義父は、自宅を探しながら帰る途中、ある子連れ女性が「飯ごうのご飯をこの子に一口でも食べさせてください」とすがって来たそうです。義父が肩から下げていた飯ごうを渡すと、女性は泣いて喜びました。「だから飯ごうはその人に渡したままだよ」と義父は言いました。

「出なかつた軍人恩給」

ニューギニア戦線は、ジャングルで飢えと病気(主にマラリヤ)で死亡する人のほうが多く、仲間たちが次々に死んでいく中、義父は生き延びて復員してきました。地獄のような戦地から、やっとの思いで復員してきた人は他にも大勢います。

でも、一定期間以上の軍属年数がないと軍人恩給は受給できず、義父もその一人でした。義父は「俺たちは国に見捨てられたんだ」と言っていました。『戦後贈られた銀杯と懐中時計』1993年、終戦後48年たつてから平和祈念事業特別基金より、義父に銀杯と懐中時計が贈られました。最初はうれしそうに贈られた銀杯と懐中時計を見せられてきましたが、だんだんと「50年近くたつてから慰労されてもな…国は復員兵が死んで人数が減るのを待ってんだ」と語るようになり、聞いていた私も涙が出てきました。



S・Kさんのお義父さんは亡くなりましたが、とても立派に見える銀杯と懐中時計は残っています。でも、これらのモノが持つ背景を私たちは決して忘れてはいけません。「戦争が残る」お宅がありましたら、ご家族で考える機会を持たれてはいかがでしょうか。

〔参考〕平和祈念事業特別基金は、「平和祈念事業特別基金等に関する法律昭和63年法律第66号」に基づき、内閣総理大臣の認可を受けて1988年7月1日に設立。2003年10月1日に新たに独立行政法人として発足し、慰労品の贈呈事業及び啓発広報活動等の慰労事業を2010年9月末まで実施(総務省ホームページより)。

東都生協の平和活動

東都生協では、さまざまな平和活動をしています。

- 平和募金を40年以上継続 ● 広島・長崎へ代表団を派遣
 - 1993年から「東都生協平和の日のつどい」を開催、その後2004年から「東都生協平和のつどい」と改称して開催
 - 2017年からは「ヒバクシャ国際署名」の推進
 - 2021年3月から、日本政府に核兵器禁止条約の批准を要請するため「核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」の推進 など
- 昨年度のピースアクションinヒロシマ・ナガサキは、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにオンラインで開催され、改めて世界の現状を学びました。



ピースアクションinヒロシマ・ナガサキなどに参加すると、碑めぐりや被爆者との交流を通じて、一瞬にして「地獄図」と化したようすを知り、核の恐ろしさと被爆の実相、そして「平和」の大切さを実感することができます!

インターネットの「NHK戦争証言アーカイブス」も参考になるヨ!

- 世界の核保有国
→ アメリカ、中国、イギリス、フランス、ロシア、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮。
- 世界の核保有数
→ 13,400 (2020年1月時点)、90%がアメリカ、ロシアで保有。
- 国際的な平和への取り組み
→ ① ICAN (核兵器廃絶国際キャンペーン): 核兵器禁止・廃絶を目的に活動する世界のNGO (非政府組織) の連合体。2017年ノーベル平和賞受賞。
② NPT (核兵器不拡散条約): 1970年発効、191カ国が加盟。条約の三本柱は「核不拡散・核軍縮・原子力の平和利用」。
③ 核兵器禁止条約: 2017年に国連総会で採択、2021年1月22日に批准国が発効要件の50カ国に達する (日本政府は批准していない)。

出典: SIPRI YEARBOOK 2020、外務省ホームページなど